

時事新報の編輯に關する書信にして往々社員へ宛御送致の向も有之候得共宛名の社員不在の事ありて折角の報道も其用を爲さざる事からされば斯る書信は一切時事新報編輯局宛にて御送付被下度候

時事新報定價
 時事新報 一年三百六十五日一日モ休刊セズ其代價遞送料廣告料ハ左ノ如シ
 ○一箇月前金五十圓 ○三箇月前金一圓五十圓 ○六箇月前金三圓
 ○一箇年前金六圓
 ○時事新報社より直接ニ郵便ニテ送達スルモノニ限リ右定價ノ外ニ一箇月二十六日ノ送達料ヲ申付
 時事新報廣告料前金

一行二十行	一行二十付	一行二十付	一行二十付
一行十行	一行十付	一行十付	一行十付
一行五行	一行五付	一行五付	一行五付
一行三行	一行三付	一行三付	一行三付
一行一行	一行一付	一行一付	一行一付
一行一行以上	一行一行以上	一行一行以上	一行一行以上
八錢	七錢	六錢	五錢
六錢五厘	五錢五厘	四錢五厘	三錢五厘
五錢五厘	四錢五厘	三錢五厘	二錢五厘
二錢五厘	一錢五厘	一錢五厘	一錢五厘

時事新報

女子教育の氣風

近年來我國にて女子の教育一世の風となし都鄙に差なく女子學校設立の談を聞かざるのなき其最も盛んなるは東京府下にして政府官立の高等師範學校高等女學校等を始めとして民間公私立のものに至りて其規模の宏大なるもの少ならず又近頃府下の貴族紳士の協立に成る女子教育獎勵會にて盛大有る學校を起すの計畫中あるよしにて其他同様の目的を以て設立したる學校は其數枚舉に遑わらず誠喜ばる事にして今後益々其の盛んあるを願はばしき所なれども我輩の一方に之を喜ぶと同時に又一方に顧み今の女子教育の氣風は如何なる方向に在るか、其氣風は果して今の日本社會の生活の實際に適應するものあるや否やを探究するの要を見る者なり抑も女教の事に關しては從來學者の議論も多く女子の教育は男子と其科目程度を同一にす可や否や即ち女子の心身の働は男子と同一視するを得べきや、若し同一視する能はざるものとすれば其男子と異なる點は何れに在る可きや等の議論は緊要は問題にして女子教育の事を論ずるには先づこの問題を調査すること必要ありと雖も是れは心理生理に關する深遠の理論なるが故に暫く之に觸るゝを止め唯現今日本に行はるゝ女子の教風は今の日本社會の實際に適應して不都合なきや否やは我々の尤も觀察せざる可らざる所の問題なりとす願ふに維新以來我國教育の組織一變してより女子教育の事ハ往々學者間の問題となして世上の注意を惹きたるものと少ならずしと雖も其社會の勢力を得て實行の盛んなるを見るに至りたるは實に兩三年前に在るもの如き蓋し時運の然らしむ所ならんと雖も竊に鄙見を以てそれ其盛況を呈したる之單に時運到來とのみ云ふ可らずして別に一種の原因ありと斷定せざるを得ず其原因とは何ぞや社會改良の議論即ち是れなり抑も社會改良論の我朝野に行はれて勢力を博したるは兩三年前の事にして其起源を尋ねば當時條約の改正首尾よく行はれ外人に内地雜居を許可す可しとの説ありて其説一時日本の全社會を動かす人々其身構に心忙はかりし中にも最も影響を蒙りたるは以上述べた社會にして其言に曰く外人内地に雜居して互に往來交際するに至らんか日本社會萬般の事物今日の有様にして外人に對して不外開なり先づ差當り日本風の衣食、日本流の家屋は外人との交際に不都合あれば悉皆これを改めて西洋風にしたる處にて之にて

も猶不足なるものは西洋にては男女の交際最も親密にして夜會宴會等の席は必ず婦人と共にするの例あれば日本にても此風に倣はざる可らず男女の交際必要なりとして扱ふに第一の困難は日本の婦人に教育の乏しき一事なり衣服飲食家屋等の如きは錢を以て買ふ可しと雖も西洋の婦人が善く語り善く笑ひ善く歌ひ善く舞ひ善く宴席の間に周旋してその風采態度の輕快優美を其上に風流の餘曠時に美術の妙に入り眼前の品評を説て古今の事物に及ぶが如き其知識の高尙あるは逆も今の日本婦人の企て及ぶ所にあらず斯くては不都合なり云々を以て遂に遂に女子教育の必要を感じて其説は社會の改良即ち外論論と共に先づ上流社會の間に勢力を占め終に延て一世の風をなす今日の實際に女學の隆盛と見るに至りたるものし如し左れば今の女子教育は人生居家の要家風團樂の幸福云々の點より發したるに非ずして社會交際の急迫追られ恰かも速成に製造したるものなれば自から一種の氣風を帯びざるを得ず千年の習慣、家の内に塾居したる女子をして宛然たる倫敦、巴里の交際婦人ならしめんとすの注文あるが故に錢を愛せざれば其外面は得べからざるに非ずと雖も苟も經濟の眼を以て見るときは到底我日本社會に行はるゝ可き事情にあらざるは識者の斷言して疑はざる所なり故に此教風として獨り有錢の上流社會のみよ止まらざれば則ち可なりと雖も上流の運動延て一般の女子教育に波及し以て一世の風向を成すに至りては其利害輕々看過す可らざるものあり (未完)

軍器の進歩

近年歐洲諸國に於ける軍器の進歩の著るしきものにて一方に軍艦の制と改りて甲鐵の厚さ一尺以上を爲せば一方は亦之れを打貫く大砲の新發明ありて大砲の進歩は却て軍艦の右に出で今如何なる厚身の甲鐵艦も一步を確彈に讓るの勢ありて今更厚板の鐵艦を製造するは無用なりとの論に歸着し目下の製造方策は自ら從來の目的と異なりて是迄鐵艦を用ひたる部分は鋼鐵を以て代用せしめ例へば鐵板二寸の厚さのものなれば鋼鐵製に改めて一寸に縮光成る丈け重量を減じて速力を増すの趣向と爲し又吃水を深くして蒸汽機その他の器械を水面下に隠らしめ砲撃を防ぐの工夫を爲せり左れば日本諸所の造船所にて製造する軍艦の云々でもなく大概概此趣意を根本として打立たりといふ

印度の戰爭

本月廿三日の本紙上に英將グラハム氏は西藏人をセルチサ地方に攻撃し之を破りたるよしと記載せしが今其詳報なりとて或外國新聞も掲げたるを見るに三月廿日の拂曉を期し英の陸軍大佐グラハム氏はプロムヘッド大佐と共にアルピシヤ隊百人士兵百五十人大砲二門を以てセルチサ地方にある西藏人の壘を攻撃せんと企てたりさて西藏人の方にては前夜より英軍の來襲を探知し大石巨材を集めて同地方の丘陵の前後に胸壁を築き防禦の用意最と嚴重に見へれ共前壁の英軍の隊伍を整へて攻め來り大砲を發射するよ及び首先を率ゐて逃走せり之と同時にランスデン大尉は士兵一隊を引率支後壁に向ひ去る此時西藏の一將兵を督して能く戦ひ胸壁の前面に深さ十尺幅二十呎の濠を掘り致して近づくを得せしめランスデン大尉は左手を傷けグラハム大佐は頸に銃丸を受ければ已むを得ず攻撃の方向を轉せ敵の右側に出てんとせる際トラス大尉のアルピシヤ隊率ひて援くるに會ひ又前壘を破りて勝ち誇りたる兵士も集りければ大に勢を得全軍力を合せて敵陣に殺到し奮戦英軍の後漸く西藏人を放逐せり西藏人は軍敗るに及び什器食糧等を戰場に投げ棄て僅かに身を以て荆棘の中に潜み本營リッ地方を指して遁走しプロムヘッド大佐と士兵一隊は之を追撃したれども飢渴に究して軍を遣せり此の日の戦に西藏人の斬殺せられしもの四名英人は只輕傷を受けしのみかくて英軍は暫時休息の後リッ本營より二哩距たりたるカーチ地方に進み同地方は名に或んヒヤヤ高山の支脈なれば高さ一萬一千尺にして當時橋樑を合むの候なるにも拘らず積雪地上を覆ひ其寒さ云はん方亦兵士の困難一方からず程亦積雪方より近づきければプロムヘッド大佐に百五十の士兵を授けて同地を守らしめグラハム大佐は本陣に退けり翌廿一日は各軍一隊とあり士兵と先鋒となしアルピシヤ隊を遊軍とし大砲を後陣に備へ喇叭の音に連れ最勇しく敵軍の本營リッを指して打出でたりされど通路險惡にして積雪を没し且つ霧深く數時間の艱難辛苦を経り前面を望み敵營の附近に驚か俄かに伍と正し馬の足掻を早めて敵營に進めば何ぞ圖らん三十名計の西藏人は脱兎の如く一戦せずして逃去り英軍代つてリッ地方と占有せり

電話機架設

帝國大學醫學科大學にては今度本郷なる同大學構内より下谷第二醫院へ電話機を架設する筈にて昨今工事中なりといふ

サイペリヤの鐵道 カスピヤ海よりボクハラに至る鐵道工事と負擔せる露國將軍アンネンコフ氏ハ太平洋に連するサイペリヤ鐵道線路調査の爲め中央亞細亞を出發してサイペリヤに赴きたるが氏は歐羅巴亞西より浦羅斯德に連する鐵道を三箇年に竣工せしむべしと信し居るよし

俱樂部 神奈川縣下相州高野郡鶴沼村の海岸松林中へ一個の俱樂部を設立し會員と京濱の地方に募りて地方と都會の人士と交際の道を開かんとて目下同地方の有志者は會員募集中なりと云ふ

支那官職の公賣 黄河の堤防を修繕するため支那政府の官職を公賣して費用に充て居りしが今其賣上高は去年十一月分は八十萬兩、同十二月分は三十萬兩にして本年一月分は八萬兩、同二月分は十八萬兩なりとし

高低温度の報告 地理局中央氣象臺よては今度米國氣象臺の依頼を以て我國最高最低の温度と報告すべき特約を結びざるよし

在監人の總計 石川編監獄分署に於て現在の囚人の二千三百餘人にして内三十四人の保安條例違反罪なりと

清國福州の商況 茶の最早期節に近づたるを以て内地の茶商は福州の支那錢庄に向て金を請ふものあれども昨年の不景氣に應りて各錢庄共に充分の携金をなせず目下錢庄の支出せる金額は昨年の半額に達せざる趣なり又香港より福州へ輸入する石油は近來不足を告げ二三週間前迄は二錢入一箱洋銀二兩三十仙位の相場なりしも昨今に至りては三兩二十仙の高價に進めり云々

福州よりの通信に見ゆ

中武有志農談會 前號に記せし如く同農談會は去る

二十二日據 農務委員 爲し來會者の 鹿兒嶋縣 珠貝を取り ざる由なる 相附着し又 生活上に必 注意を要す

滋賀縣下 不順なりと 模倣にて 充分の地 是多分七八

滋賀縣下 同縣 年ハ暖氣の 開之ある 摘葉に而 しかバ聊か 方は増す

釣網貸船 橋區元柳 京府廳へ 盛元座 外題は なりと

黒娘の 波ノ國の せり其 最も肥 ものあれ 著したる

黒奴種 扮裝甚 云ふマ 何よも 通過の れとも其 同地よ

新刊書 名を顯は 事と説起 殊々宰相 商を近づ の一段は 國正義の 未路に至 氣の廓清 氏契約法 アマン 判決例最 るを知る